

平成 28 年度 全国私立中学高等学校  
**私立学校特別研修会**  
**外国語（英語）教育改革特別部会**  
**〔東京エリア〕**  
**実施報告**

一般財団法人私学研修福祉会 主催  
一般財団法人日本私学教育研究所・上智大学言語教育研究センター 協力  
日本私立中学高等学校連合会 後援

小学校・中学校・高等学校等を通じた英語教育改革を進める文部科学省では、平成 26 年度より英語教員の英語力・指導力強化を図る観点から、英語指導力向上事業「英語教育推進リーダー中央研修」を外部専門機関に委託し実施しています。同研修は、全国の国・公・私立学校の英語教員を対象にしているものの、公立学校を中心とした研修の仕組みになっていたことから、私学関係者の要望に応じて、文部科学省は平成 27 年度より私立学校教員が参加しやすいよう受入体制を整備し、私立学校教員も参加できるようになりました。

しかし同時に、次期学習指導要領や大学入学者選抜改革を含めて国が進める英語教育改革に係る最新の情報が、私立学校には十分に伝わっていない実情もあり、私立学校教員は公立学校教員に比べ情報量が少ない故に埒外に置かれた感は否めません。

ついでに、私立学校においても、外国語（英語）教員の外国語（英語）力・指導力強化を図るためには、教員が 21 世紀型教育に相応しい最新の教授法と情報を早急に取り入れる必要があることから、当研究所では、平成 27 年度より専門家の指導による特別研修「外国語（英語）教育改革特別部会」を実施しており、平成 28 年度も引き続き、専門家の指導に上記の「英語教育推進リーダー中央研修」受講者の指導によるワークショップを加えて、研修を実施することとしました。

- ◆ 会 期 ◆ 平成 28 年 5 月 21 日（土）  
◆ 会 場 ◆ 上智大学四谷キャンパス（全体会場：2 号館 17 階 1702 会議室）  
東京都千代田区紀尾井町 7-1（JR・東京メトロ四ツ谷駅徒歩 5 分）

◆ 参加人数 ◆ 85 名（65 校）

◆ プログラム ◆

① 講演 演題 21 世紀型の英語教育を目指して  
講師 吉田研作 上智大学特別招聘教授・言語教育研究センター長

② 講演 演題 CLIL（クリル：内容言語統合型学習）の理論と実践  
講師 藤田 保 上智大学言語教育研究センター 教授・副センター長

※上智大学でも実践している新しい授業の考え方を実践的な活動を交えながらお話しします。

③ ワークショップ

英語で授業のヒント Teaching English in English

(1) Personalisation & Authentic Materials 1

(2) Personalisation & Authentic Materials 2

指導 酒井 眞希子 学校法人石川高等学校 教諭  
小澤 幹生 東洋大学附属牛久中学校・高等学校 教諭  
山本 永年 市川中学校・高等学校 教諭  
岡本 卓也 大森学園高等学校 教諭  
佐藤 貴明 聖光学院中学校高等学校 教諭  
横内 敦 横浜清風高等学校 教諭  
家中 潤 久留米大学附設中学校・高等学校 教諭  
桑野 健太郎 九州国際大学付属高等学校 教諭

◆ 日程概要 ◆

時刻	09 30	10 00	10 15	11	12 45	13 45	14	15 30	16	17 45	17 00
5 月 21 日 (土)		受付	開 会 式	① 講演	昼食		② 講演	③ ワークショップ		開 会 式	

## ◆ 講師プロフィール ◆

### 吉田研作氏

上智大学特別招聘教授、言語教育研究センター長。上智大学大学院、アメリカ・ミシガン大学大学院修了。専門は、応用言語学。J-SHINE 会長。文部科学省「英語教育の在り方に関する有識者会議」座長、「外国語能力の向上に関する検討会」座長、「外国語教育における『CAN-DO リスト』の形での学習到達目標・設定に関する検討会議」座長、「英語力評価及び入学者選抜における英語の資格・検定試験の活用促進に関する連絡協議会」委員・「同協議会作業部会」主査などを歴任。今年からは「高大接続システム改革会議」委員、中央教育審議会「教育課程企画特別部会」委員などを務めている。近年では、日中韓 3 カ国の高校生の英語力比較や、教師の教授法比較などについての研究にも力を入れている。「起きてから寝るまで英語表現 700」シリーズや「小学校英語指導プラン完全ガイド」（ともにアルク）などの監修を務めるほか、著書多数。

### 藤田 保氏

上智大学外国語学部比較文化学科（現、国際教養学部）卒業。同大学院外国語学研究科言語学専攻博士前期課程修了。専門は応用言語学（バイリンガリズム）と外国語教育。立教大学異文化コミュニケーション学部教授等を経て、現在、上智大学言語教育研究センター教授、副センター長。特定非営利活動法人小学校英語指導者認定協議会（J-SHINE）理事。公益財団法人日本英語検定協会理事。主な著書に『コミュニカティブな英語教育を考える』、『英語教師のためのワークブック』（ともにアルク）、『21 年度から取り組む小学校英語』（教育開発研究所）などがある。

## ◆ 講師・発表者・指導員（順不同） ◆

吉田 研作	上智大学 特別招聘教授・言語教育研究センター長
藤田 保	上智大学 言語教育研究センター 教授・副センター長
酒井 眞希子	学校法人石川高等学校 教諭
小澤 幹生	東洋大学附属牛久中学校・高等学校 教諭
山本 永年	市川中学校・高等学校 教諭
岡本 卓也	大森学園高等学校 教諭
佐藤 貴明	聖光学院中学校高等学校 教諭
横内 敦	横浜清風高等学校 教諭
家中 潤	久留米大学附設中学校・高等学校 教諭
桑野 健太郎	九州国際大学付属高等学校 教諭
吉田 晋	富士見丘中学高等学校 理事長・校長
中川 武夫	蒲田女子高等学校 顧問

## ◆ 特別委員・指導員（順不同） ◆

平方 邦行	工学院大学附属中学高等学校 校長
浜野 能男	普連土学園中学高等学校 校長
金丸 紋子	カリタス女子中学高等学校 教諭
松本 浩欣	相模女子大学中学部・高等部 教諭
田中 歩	工学院大学附属中学高等学校 教諭
川本 芳久	一般財団法人日本私学教育研究所 事務局長代行
山崎 吉朗	一般財団法人日本私学教育研究所 主任研究員

# 私立学校特別研修会外国語（英語）教育改革特別部会【東京エリア】 実施内容概要

5月21日（土）に上智大学言語教育センターとの共催で上智大学を会場に開催した。85名の参加者があった。吉田研作・上智大学言語教育センター長、藤田保・上智大学限教育センター副センター長による講演と平成27年度文部科学省事業「英語教育推進リーダー中央研修」受講者によるワークショップが行われた。これら3つの内容が繋がりをもち、内容が実感を持って理解できる構成になった。アンケートを見ても非常に高い評価を頂いた研修会であった。

## 開会式



開会式の挨拶では、まず吉田晋・当研究所理事長がこれまでの英語教育とこれからの英語教育・入試における英語の変化についてお話になった。続いて、吉田研作・上智大学言語教育センター長も同様に英語教育の変化と入試の変化の時期にあることについてお話をいただいた。

## 講演 1

吉田研作・上智大学言語教育センター長の講演「21世紀型の英語教育を目指して」は具体的なデータ、研究に基づく講演であった。現在の英語教育改革の動向と日本の英語教育の現状、英語を英語で教える事の意義や、日本人教師が生徒の英語話者のモデルになることなど参加者にとって明解であり刺激のある内容であった。



最初に英語教育改革の発端から現在の英語教育改革を俯瞰した。現在の英語教育の在り方、小学校の外国語活動から中学校の教科の英語への接続が上手くいっていないため、英語嫌いが増加している点を改革しようとしていることを説明。入試の改革の必要性がある事にも触れた。

生徒の英語力と英語で授業をすることには高い相関がみられることをデータで示され、実際の授業では、教師が答えの分かっている Display アクティビティがほとんどで、コミュニケーション活動である Referential アクティビティは圧倒的に少なく、授業の内容の問題と生徒の英語力の関連を指摘した。また、社会的には英語を使う必要があることは分かっているが、自分の生徒は将来英語を使う必要はないと考えている先生が3分の1いる。こういった気持ちは生徒に伝わり悪循環になる。生徒に対してポジティブな気持ちを持ってほしいこと、ネイティブの英語をモデルにするのではなく、ノンネイティブの英語に生徒が触れる機会を増やし、モデルとなるのは日本人の英語話者である英語教師であることを述べた。

CAN-DO が問題に言及し、現在の学習活動ではブルームの教育の目標分類の LOTS (Lower Order Thinking Skill) ばかりが行われているが、グローバル社会で求められる能力には HOTS (Higher Order Thinking Skill) の活動が必要になると説明した。

## 講演 2

二つ目の講演は、藤田保・上智大学言語教育研究センター 教授・副センター長より、一部分を除き、全て英語で行われた。参加者にとっては、上智大学で行われているクリルの体験でもあり、また、吉田研作先生の講演の内容を具体的に示されるものでもあった。講演ではあるが、途中動画を見てのペアワークや教科書の部分についての説明など参加者が活動する場面もあり次のワークショップへとつながっていく内容となっていた。



上智大学での外国語教育の説明とその目的、学生が身に付けて欲しい4つの能力（学術的言語能力、批判的言語能力、共働的言語能力、機能的言語能力）について説明があった。上智大学で行われている、クリル（内容言語統合型学習）について、誕生した経緯からその原理（内容・会話・社会／文化・認識）についての説明があった。最後に、これからの英語授業を考える3つの柱は、何を知っているかという個別の「知識・技能」に加えて、何ができるかの「思考力」「判断力」である。教員の用意した既成のプランに基づいて授業を組み立てるより、共働的なやり方を推進し、生徒が自分の頭で考えて表現できるようになっていくことが大切である。それぞれの生徒の考えを、そのスキルによって表現できるようになることが重要であると結んだ。

## ワークショップ

平成 27 年度文部科学省推進事業「英語教育推進リーダー中央研修」受講者の先生方の指導によるワークショップが行われた。本研修会で同受講者によるワークショップを実施するのは前年度から引き続いて 2 回目。今回の内容は「Personalisation & Authentic Materials 1」「Personalisation & Authentic Materials 2」で前回とは違う内容で行われた。グループワークや、教室を歩いて行う活動など、参加者を飽きさせない内容がふんだんに含まれていた。アンケートでも、ワークショップは好評であった。

ワークショップ後の意見交換会では「普段の学校ではどのくらい all English の授業をおこなっているのか」「ワークショップの内容をどの位授業にとりいれているのか」などの質問があった。



## 閉会式

山崎吉朗・当研究所主任研究員より今日の研修の内容を現場に生徒に還元して欲しいと総括があった。



### ◆都道府県別参加申込者数◆

No	都道府県名	参加申込数	No	都道府県名	参加申込数	No	都道府県名	参加申込数
1	北海道	1	17	石川	0	33	岡山	1
2	青森	1	18	福井	0	34	広島	2
3	岩手	0	19	山梨	0	35	山口	0
4	宮城	4	20	長野	1	36	徳島	0
5	秋田	0	21	岐阜	0	37	香川	0
6	山形	4	22	静岡	0	38	愛媛	0
7	福島	2	23	愛知	4	39	高知	1
8	新潟	0	24	三重	0	40	福岡	3
9	茨城	1	25	滋賀	0	41	佐賀	0
10	栃木	3	26	京都	4	42	長崎	0
11	群馬	2	27	大阪	2	43	熊本	0
12	埼玉	1	28	兵庫	0	44	大分	0
13	千葉	4	29	奈良	1	45	宮崎	0
14	神奈川	13	30	和歌山	0	46	鹿児島	0
15	東京	29	31	鳥取	0	47	沖縄	2
16	富山	0	32	島根	0	計		85

## ◆アンケート◆

回収率 74 / 85 (87%)

### 問1 当研修会への参加目的をお知らせ下さい

- ・ CLIL について学ぶため
- ・ 英語による英語の授業を知るため
- ・ 英語教育の現状を知るため
- ・ 授業のヒントを得るため

### 問2 当研修会の各プログラム・内容等について、参考になった点、感想、意見等をお書き下さい

#### ○吉田研作先生講演

- ・ 高校の教員、授業のやり方の現状がわかり、これからの英語科教員に必要な事は何かを考える良い機会になった
- ・ 新しい教育観について参考になりました。特に My English という考え方、Lingua Franca の理解が深まり、今後の授業に役立てられそうです
- ・ 英語使用者のモデルとして、英語を使って力を発揮出来る点を自分も増やしていきたい
- ・ 英語を使う事の現状とその有効性を認識できた

#### ○藤田保先生講演

- ・ CLIL の考え方の基礎を教えていただき方向性が見えた。持っている知識を使って何が出来るのか、生徒達と一緒に考えていきたいと思う
- ・ CLIL の考え方を是非とも活かして今後の授業改善をしていこうと思う
- ・ 持っている知識をどのように活用するかが大切であることがわかりました。授業で Higher order thinking skills の要素を取り入れたいと思う
- ・ 具体的な事例を用いての講演で、よりよい授業にするためのヒントを頂いた

#### ○ワークショップ

- ・ 英語を英語で教えるヒントを得ることができた
- ・ 授業にもっとアクティブな活動を取り入れていこうと思った
- ・ 生徒役として実際に活動してみる事で、授業にどの様に取り入れられるかをイメージしながら参加する事が出来た
- ・ 実践例がたくさん出てきて、共感出来るが多かった

### 問3 本年度秋以降の本研修会への要望等をお書き下さい

- ・ 学習意欲・学力の低い生徒に対する英語での授業の行い方